

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】☐H23（A-Ⅱ）☐H24（Ⅰ）☒H24（Ⅱ）【AIMS】☐H25／ 早稲田大学

■プログラム名

「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業

――以下、マレーシア・インドネシア・フィリピンに特化した内容を主に記載ください。――

■相手大学・機関（国名も記載ください）

マラヤ大学（マレーシア）、パジャジャラン大学（インドネシア）、
デ・ラ・サール大学（フィリピン）

■主な活動内容（概要）

【本学日本語教育学専攻、副専攻の日本人学生の短期派遣】

- ・日本語授業見学、授業参加 ・日本授業サポート（授業内T A、教材作成）
- ・日本語授業教壇実習（会話練習、店での注文の仕方、ひらがな復習・カタカナ導入）
- ・日本語ラウンジ（日本語でインドネシア語を教えてみようプロジェクト）
- ・課外活動（料理、茶道体験、キャパスマップ・学校紹介作成、書道、年賀葉書作成）
- ・文化交流会（よさこいソーラン節、盆踊り、縁日形式での日本文化紹介活動）
- ・（英語による国際関係、日本の政治政策等）大学の正課授業への参加

【海外相手大学日本語学習学生の短期受入】

- ・短期日本語集中プログラムの受講
- ・茶道体験、箱根小旅行、国際交流イベント（I C C、学生サークル主催）への参加

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

短期交流においてマラヤ大学、デ・ラ・サール大学からの受入が予定数を下回っている。先方大学によると経済的な問題が大きいという。補助金から住居費を補助し、対象者にはJASSO 奨学金を支給しているが、日本（東京）での生活費が高く、なお自己負担が大きいとのこと。具体的には、宿舎から大学までの交通費だけで毎日1,000円前後の出費がある（短期滞在のため学割定期も使えない）。これは海外学生の短期滞在用の宿舎を、大学周辺の都心で適当な価格で確保できず、現状都心から1時間程離れた距離（埼玉県）に手配せざるを得ないことに起因する（短期留学生向けの宿舎確保は課題の一つである）。

一方、ASEAN 諸国でもシンガポールとそれ以外の諸国では経済水準が大きく異なるため、経済的援助を一括りにせず、派遣元国の経済水準に応じた傾斜配分を模索している。また東京と地方の大学では住居費が異なるため、JASSO の受入学生に対する奨学金も、派遣同様、大学の所在地により（在京の大学には多めの）傾斜配分等の配慮があるとありがたい。

成功事例

短期派遣を経験した学生1名が、自らの成長のため、かつ使命感に駆られ、同じ大学に長期に留学することとなった。また1名はオーストラリアの海外日本語教育インターンシップに参加している。いずれも半年の長期間であり、重層的な人材育成が実現している。